

音楽部 活動報告

1 活動のねらい

- ・ 音楽の専門的な知識や技術，指導力の向上を図る。
- ・ 部員相互の授業の工夫や悩みを話し合いながら，情報交換をする。

2 活動内容

(1) 第1回部会 「活動計画立案」(5月)

(2) 第2回部会 「音楽授業研修会」(8月)

- ① 内容 「教育課程改訂のポイントと授業の実際」
- ② 講師 内海 昭彦 様 (新発田市立二葉小学校)
- ③ 概略

○教育課程改訂のポイントについて

[共通事項]の新設，中学年への「伝統的な音楽」の位置づけ，「つくって表現」から「音楽づくり」へ，言語活動の充実，の4点が大きなポイントとなる。

○「音楽づくり」と「言語活動」を組み合わせた内海先生の実践紹介

「花火の様子をボディーパーカッションで表現しよう」という6年生の授業実践を紹介していただいた。

○模擬授業

自分の思い浮かべる「花火」のイメージをもとに，リズムづくりをし，友だちに伝える。その後，お互いに感じたことを話し合い，お互いの考えのよいところを取り入れながら，改めて「花火」のリズムを友だちと一緒につくり上げていくという授業であった。

(3) 第3回部会 「情報交換会」(11月)

- ・ 1年生の鍵盤ハーモニカ指導では，「きらきら星」の階名唱をし，グループを作っての演奏や拍子を変化させての演奏を取り入れることで伸びがあった。
- ・ 小学校の授業に中学校の先生を招いたら，頭声発声ができるようになり，小中連携で効果があった。
- ・ 2部合唱は難しいので，部分的に2部にするところから始め，少しずつ2部の部分を増やしていくと無理なくできるようになった。
- ・ 音楽の時間にはいつも歌う定番曲（「すいかの名産地」など）を決め，楽器演奏やリズム伴奏などにも応用して活用するとよい。

3 成果と課題

- ・ 夏期研修では，指導要領改訂のポイントについて実際の授業と結びつけて理解することができた。
- ・ 夏期研修の模擬授業を受け，言語活動を授業の中にどのように取り入れていけば「音楽づくり」の活動が活性化するかが体感できて有意義だった。
- ・ 情報交換会では，すぐに授業で使える情報を交換できてよかった。
- ・ 小学校と中学校の両方のニーズに対応した研修内容にしていくことが今後の課題といえる。